

【「地方の時代」映像祭】グランプリ 初の受賞 忘れてはいけないこと ～認知症受刑者が問いかけるもの～

報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12、以下OHK）は、11月13日から開催されている『第41回「地方の時代」映像祭』において、出品作品の「忘れてはいけないこと～認知症受刑者が問いかけるもの～」が最優秀のグランプリに選ばれました。大阪・吹田市の関西大学で行われた贈賞式には、取材を担当したアナウンサー兼ディレクターの岸下恵介が出席し、グランプリのトロフィーを受け取りました。

「地方の時代」映像祭は、地方ならではの課題や活動を描いた映像ドキュメンタリーの祭典で、政治、経済、文化など社会の行き詰まりを「地方」からの新しい目で見直そうと1980年に始まったものです。全国の放送局やケーブルテレビ局、市民・学生・自治体から、270の地方発のドキュメンタリー作品の応募がありました。OHKの入賞は1991年以来で、グランプリ受賞は開局以来初のことです。

受賞した「忘れてはいけないこと～認知症受刑者が問いかけるもの～」は、高齢化する受刑者の認知症という刑務所が抱える問題を取り上げ、刑務所の目的や存在意義について取材したもので、塀の中で進行している世間には見えない問題を察知し、粘り強く継続取材を重ねたことが高く評価されました。

岸下アナウンサーは「今後も刑務官不足の問題や、受刑者の過剰収容問題、高齢化問題など塀の中で起きている問題は時代とともに様変わりしてはいますが、その変化も含めて今後も継続的に取材を続けていきたい。」と語っています。

OHKでは、今後も地域に根ざした放送局として、地域が直面する課題や活動を取材し続け、映像を通じて全国に発信し続けていきます。

なお、下記の要領にて、グランプリ受賞作品東京上映会が開催されます。ぜひこの機会にご覧ください。

■第41回「地方の時代」映像祭2021 グランプリ受賞作品東京上映会

日時：12月4日（土）13時30分～17時30分

場所：関西大学東京センター（千代田区丸の内1-7-12サピアタワー9階）

定員：80名

<申し込みフォーム> <https://bit.ly/3o4uceg>

※参加は事前申し込みに限ります



【贈賞式の様子】



【番組の一場面】